

【投資家向け】
中外製薬 CEO 懇談会
要約資料
(2020年9月10日作成)

- ・ 本補足資料には、医薬品（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、それらは宣伝・広告や医学的なアドバイスを目的とするものではありません。
- ・ 2020年9月3日、4日に、計23名の機関投資家・証券アナリストを招き、CEO 懇談会を開催しました。本資料は、懇談会での説明内容を要約したものです。
- ・ 本懇談会の当社スピーカーは、以下の通りです。

代表取締役会長/CEO 小坂 達朗

執行役員 プロジェクト・ライフサイクルマネジメントユニット長 渡邊 稔

すべての革新は患者さんのために



CHUGAI

中外製薬株式会社

Roche ロシュグループ

【中期経営計画 IBI 21 の展望】

- 昨年に引き続き、本年度も増収増益を見込んでいるなか、IBI 21 の定量目標は core EPS CAGR30%前後と、やや保守的と見なされる点について大きく 2 つの要因がある
 - 1 つ目は、成長ドライバーのヘムライブラに関して、海外での市場浸透のスピードが読みにくいこと。2 つ目は、2021 年は薬価の中間年改定に該当するが、薬価差が大きい製品のみとなるのか、市場拡大再算定を含めて全医薬品が対象となるのか等、薬価改定の適用範囲が不透明な点にある
 - さらに詳細な点として、来期以降の業績へのプラス/マイナスの要素は以下のように考えている
 - ◇ プラス要素としては、新製品のエンスプリング、本年申請済み/申請予定の開発品であるポラツズマブ ベドチンおよびリスジプラム、適応拡大による売上増加を見込む製品として、カドサイラ(乳がんアジュバント)およびテセントリク(肝細胞がん)に期待している
 - ◇ マイナス要素としては、上述した薬価引下の影響、BS によるアバスチン、ハーセプチン、およびジェネリックによるエディロール等の売上減少がある
 - ◇ ヘムライブラの通常出荷価格と初期出荷価格の差額補填に相当するロイヤルティ 2 については、来年終了するか、以降も継続するかはロシュの海外現地売上の動向に依存するが、ロイヤルティ 2 が終了した際、一時的に売上収益・利益が上下することが想定される

【創薬モダリティ】

- 中分子技術は、10 年以上に及ぶ自社での技術開発を通じて世界最先端の技術を有していると自負しており、抗体エンジニアリング技術に次ぐ創薬モダリティの柱として期待し、積極的に経営資源を投入している
 - 中分子は従来、低分子や抗体でも狙えなかった細胞内のタンパク質間相互作用などのタフターゲットが狙える
 - タフターゲットの中には、以前より良く知られている確立されたものが存在し、そのようなターゲットを中分子で狙うことで、研究開発の成功確率が高まることに期待している
 - 新しい技術は、知的財産権が極めて重要であり、十分に当社の技術は特許でカバーしている

- 来年、一つの中分子プロジェクトが臨床入りする見込みである
- 自社品 STA551 は、当社独自の抗体エンジニアリング技術を活用したスイッチ抗体であり、先日論文が公開されたように、CD137 のアゴニスト抗体として開発している
 - STA551 は、固形がん組織中の ATP 濃度が高いという仮説のもと、ATP をスイッチ分子として、抗体が特異的に CD137 と結合し T 細胞を活性化することで、抗腫瘍効果が得られる作用機序を想定している
 - これまでいくつかの製薬企業によって CD137 をターゲットとした開発が手掛けられてきたが、肝毒性などの安全性の問題に直面してきた
 - STA551 は、安全性の課題を克服し、がん組織特有に作用する抗体として期待している

【デジタルトランスフォーメーション（DX）】

- 今までは研究者の情熱とサイエンス、テクノロジー（創薬技術・生産技術）を基軸にイノベーションを進めてきたが、今後はこれらに「デジタル」を加えてイノベーションを加速させていく
- DX 成功の鍵は、人財と組織、また明確なビジョンの策定と経営トップのコミットメントである。デジタル・IT 統括部門長として 2019 年 3 月に外部から女性の役員を招聘し、DX をリードしている
- デジタル技術によって中外製薬のビジネスを革新し、社会を変えるヘルスケアソリューションを提供するトップイノベーターになることが、2030 年を見据えて示したデジタルビジョンである
- ビジョン達成に向けたロードマップとしては、最初にデジタル基盤を固めること。二番目は、すべてのバリューチェーンを効率化すること、そして三番目は最も重要な AI 創薬（深層学習）である。創薬は実験によって試行錯誤が必要なプロセスがあり、深層学習とマッチする。AI 創薬を活用し、創薬の成功確率とスピードを劇的に改善させたい
- DX によりウェアラブルデバイス等、医薬品や疾病コントロールを補完する役割・サービスの提供も発展していくことが予想される。当社も DX を通じて医療・治療の発展に資するサービスの提供を続けていくが、今後も当社のコアビジネスは革新的な医薬品の創出にあると考えている

【人財】

- 事業開発は創薬から初期の臨床開発でのイノベーションと関係が深く、中長期的に事業開発の重要性はますます高まっていくと考えられ、当社の事業開発の強化、グローバルレベルの人財育成が求められている
- 当社の事業開発部に、かつてロシュのパートナーリング部門で要職を務めた外国籍の方を4月に招聘した。これまで様々なノウハウを吸収し、グローバルレベルの事業開発を見据えて着実に前進している
- イノベーションの創出に向けて、一番重要なのが人財である。中外製薬がさらに発展していくためには、ダイバーシティの観点で女性の活躍もナショナルリティも考えていく必要があり、今後も積極的に資源投下を進めていく

以上